

第 1 6 回 人 と 自 然 : 環 境 思 想 セ ミ ナ ー



# 気配の痕跡

展 示 デ ザ イ ン と  
空 間 の 記 憶

2008年11月20日(木) 15:00-17:00  
地 球 研 ・ 講 演 室

講師:木下史青氏  
(東京国立博物館学芸企画部企画課デザイン室長)

申込不要  
聴講無料

主催:総合地球環境学研究所(地球研) プロジェクト「農業が環境を破壊するとき」

Design by S.Wade

# 気配の痕跡 展示デザインと空間の記憶

「いままででいちばん感動した展覧会は？」と聞かれたら、まよわず、2006年に東京国立博物館で開催された「ブライス・コレクション展」と答えるだろう。若冲をはじめとする江戸絵画コレクションが日本に里帰りした展覧会だったのだが、所蔵者であるジョー・ブライス氏の意向により、同展の展示スタイルにはこれまでにない独特の趣向が盛り込まれていた。ポイントは二つ。一つはガラスケースをなくすること。もう一つは、できるだけ自然にちかいかい光の調整を試みる。ガラス越しに終日変わらぬ蛍光灯のもとでいくら目を凝らして見てみたところで、江戸絵画の本質はわからない。二つのポイントは、つまるところ、かつて江戸の代の人たちが鑑賞した状況下でこそ江戸絵画の魅力は最良の形で経験することができる、ということにきわまる。俗に「光の展示」とよばれた特別のブースが、そうした経験の場を創出すべく設けられた。

そのときはじめて絵が「動く」という経験をした。ゆっくりと変化する光のなかで、絵はその表情を刻々とかえてゆく。現代の平面的な通常の照明ではほとんど気がつかないほどかすかに描かれた、金地の上の胡粉の雪も鮮明に見えてくる。たんに見えてくるだけではない。雪は、いままさにふりそめたかのように、画中の人物の上にさらさらとふりかかってゆく。「光の展示」の冒頭、抱一の「佐野渡図屏風」で目の当たりにしたその光景はいまははっきりと覚えている。ガラスケースが排され、作品をまぢかに見ることができたことはもとより、自然の光のうつろいのままに、実にたくみに操作された光の効果が絶大だった。

それは所詮光のたわむれだったのかもしれない。操作された照明のもとで人為的に作り出された、かりそめの姿だったのかもしれない。作品「そのもの」はそうした姿以前のところにある。そういう見方もたしかにあるだろう。しかし、あえていうなら、絵を前にしたわれわれは絵そのもののもとにあるのではなく、時々刻々のかりそめの姿、仮象のもとにあるのではないだろうか。絵だけではない。相手がものであれ人であれ、人間の経験とはそういうものなのだ。経験なんて所詮仮象にしかすぎない。しかし、だからこそ見えてくるすばらしさがある。そのことをブライス・コレクション展はあらためて深く実感させてくれた。

所蔵者ブライス氏の意向をうけて、この展覧会の展示デザインを担当したのが木下史青氏である。作品そのものではなく、むしろその受けとめ方を日々あらたに提案しつづけている。人と環境、人と自然との相互作用という言葉はもはや人口に膾炙したきらいもあるが、その相互作用をいかにわれわれが日常的に感受しているのかはほとんど明らかにされていないように思われる。今回は、展示空間の構想をはじめ環境デザインに取り組んでこられた木下氏とともに、そのつど変化する環境の中での経験の本質とはいかなるものか考えていきたいと思えます。

(環境思想セミナー担当：鞍田崇)



写真はいずれもブライス・コレクション展より  
表：築図屏風 / 作者不詳

裏：十二月花鳥図 / 酒井抱一

(写真提供：木下史青氏)

## 【講師】 木下史青 KINOSHITA Shisei

1965年東京生まれ。東京藝術大学大学院美術研究科修士課程環境造形デザイン専攻修了。東京藝術大学美術学部デザイン科助手ののち、(株)ライティングプランナーズアソシエーツ、東京国立博物館学芸企画課展示調整室研究員を経て、現在、独立行政法人国立文化財機構 東京国立博物館学芸企画部企画課デザイン室長。日本の博物館・美術館で初の展示デザイン専任スタッフとして活躍する。2008年春の薬師寺展で奔走するさまは、MBS『情熱大陸』でも取り上げられた。愛知県立芸術大学デザイン科、女子美術大学芸術学科などで非常勤講師も務める。著作に、『博物館へ行こう。(岩波ジュニア新書)』、『昭和初期の博物館建築。(共著、博物館建築研究会編)』など。

日時：2008年11月20日(木) 15:00-17:00

会場：総合地球環境学研究所(地球研)講演室

〒603-8047 京都市北区上賀茂本山475-4

人と自然：環境思想セミナー  
～ 次回の予定 ～

第17回 / 12月22日(月)

「掌に握りしめた雪のように：  
折口信夫と近代のゆくえ」

安藤礼二氏  
(多摩美術大学准教授)

1967年生まれ。文芸評論家。  
『神々の闘争：折口信夫論』で  
第56回芸術選奨文部科学大臣新人賞  
受賞

## 申込不要・聴講無料

主催：大学共同利用機関法人 総合地球環境学研究所  
文明環境史領域 プロジェクト「農業が環境を破壊するとき」  
(リーダー：佐藤洋一郎・地球研教授)  
<http://www.chikyu.ac.jp/sato-project>

### 【アクセス】

JR・近鉄・阪急沿線より  
京都市営地下鉄丸線に乗り換え、「国際会館」下車。  
国際会館駅バスターミナル2番乗場から京都バス40系統  
(京都産業大学ゆき)もしくは50系統(市原ゆき)にて(約  
10分)、「地球研前」下車スグ。  
京阪沿線より  
出町柳駅で叡山電鉄鞍馬線に乗換え、「京都精華大前」  
もしくは「二軒茶屋」下車、徒歩10分。  
車・タクシーでお越しの方は  
国際会館より府道40号線で二軒茶屋方面へ。



お問い合わせ

環境思想セミナー担当 鞍田崇 (研究員)

075-707-2382 fax.075-707-2508 kurata@chikyu.ac.jp

<http://www.chikyu.ac.jp/sato-project/thought.html>